

製品名: RPE65 (5T1) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe17356**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP,IF-P
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.25mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:500-1:2000,IP 1:20-1:50,IF-P 1:500-1:2000
分子量	61kDa

抗原情報

遺伝子名	RPE65
別名	LCA2; mRPE65; p63; rd12; Retinal pigment epithelium specific 61 kDa protein; RP20; RPE65; sRPE65;
遺伝子 ID	6121.0
SwissProt ID	Q16518
免疫原	ヒト RPE65 の合成ペプチド

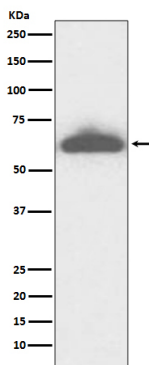
背景

11-シスレチナールの生成と視色素の再生において重要な役割を果たします。可溶性形態はビタミン A (オールトランスレチノール) と結合し、LRAT によるオールトランスレチニルエステルへの処理に利用されます。膜形態は LRAT によってパルミトイル化され、オールトランスレチニルエステルと結合し、IMH (イソメロヒドロラーゼ) によるオールシスレチノールへの処理に利用されます。レチノイドサイクルにおいて重要なイソメロヒドロラーゼは、桿体オプシンと錐体オプシンの発色団である 11-シスレチナールの再生に関与しています。オールトランスレチニル脂肪酸エステルから 11-シスレチノールへの分解と異性を触媒し、これは 11-シスレチノールデヒドロゲナーゼによってさらに酸化され、視色素団として利用されます (PubMed:16116091)。桿体および錐体光受容体の両方における 11-シスレチナールの生成に必須である (PubMed:17848510)。また、ルテインの眼特異的カロテノイドであるメソゼアキサントフェンへの異性を触媒する能力も有する (PubMed:28874556)。可溶性型はビタミン A (オールトランスレチノール) と結合し、LRAT (イソメロヒドロラーゼ) によるオールトランスレチニルエステルへの処理に利用可能となる。膜型は LRAT によってパルミトイル化され、オールトランスレチニルエステルと結合し、IMH (イソメロヒドロラーゼ) によるオールシスレチノールへの処理に利用可能となる。可溶性型は、パルミトイル基を 11-シスレチノールに転移させることで再生されるが、この反応は LRAT によって触媒される (類似性による)。

研究分野

-

画像データ



マウス眼球溶解物中の RPE65 発現のウェスタンブロット分析。